



CSR

Corporate Social Responsibility

REPORT 2023



Hydro Modern Chemistry

ハイモ株式会社

C O N T E N T S

HYMO CSR Report 2023

3 トップメッセージ

4 ハイモについて

会社概要
事業内容
事業所
売上高・従業員数
研究開発
品質サービス

5 お客様への責任

ハイモの技術と製品

ディスパージョンポリマー
エマルジョンポリマー
水処理用高分子凝集剤
製紙用高分子薬剤
法面緑化用高分子薬剤
泥土改質剤
粉塵低減剤
収束剤
電気泳動ゲル

8 ハイモのCSR活動

CSR推進室
主なCSR活動
SDGsへの対応状況

10 環境への責任

環境関連データ
2022年度の目標と実績

13 社会・地域・従業員への責任

労働災害防止への取り組み
防災訓練(2022年度)
化学物質管理体制の見直し
救命・救急、災害への対応
企業行動指針を改定
法律相談窓口の設置
誰もが安心して活躍できる職場環境のために
育児休業制度、育児短時間勤務制度等
有給休暇の取得状況
英会話教室開講

■ 編集方針

本レポートの作成にあたっては、「環境省・環境報告ガイドライン」等を参考としました。

※本レポートの作成にあたって、集計方法の見直しなどを行ったため、昨年の報告書と数値が異なる場合があります。

■ 報告対象範囲

対象期間：2022年4月～2023年3月（2023年6月発行）

※一部期間外の内容も含んでいます。

■ お問い合わせ先

ハイモ株式会社 CSR推進室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3848



持続可能な企業に成長するため 新たな取組みを始めます

ハイモは、企業統治、コンプライアンス、安全、防災、環境保全及び事業を通じた社会貢献などCSR(企業の社会的責任)活動として取り組んでおります。その結果を「HYMO CSR Report」として16年間にわたりお届けしてまいりました。今年度は2023-2026中期経営計画を策定するにあたり、制定から32年間経過した「企業行動指針」を様変わりした事業環境に沿ったものへと刷新いたしました。新たな「企業行動指針」は両利きの経営、事業の革新性、個の多様性、環境への配慮、顧客との信頼関係の5つを掲げて、企業が社会的責任を全うすることを示して、これからハイモが歩むべき道を明確にしています。当社は普遍的な「経営理念」と新たな「企業行動指針」により未来に向けて柔軟に対応できる企業を目指します。

さらに、本「HYMO CSR Report」ではSDGs(2015年の国連サミットにおいて採択された持続可能な開発目標)についても、ハイモが実行可能なテーマを掲げて積極的に進める各々の活動を記載いたしました。

本年も2022年度のハイモの事業活動の結果をまとめた「HYMO CSR Report」をお届けいたします。ご高覧いただき今後とも皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 望月 義之

ハイモについて

■ 会社概要

商号 ハイモ株式会社
所在地 東京都千代田区丸の内
 3丁目4番1号
設立 1961年4月28日
資本金 281,968,500円

■ 事業内容

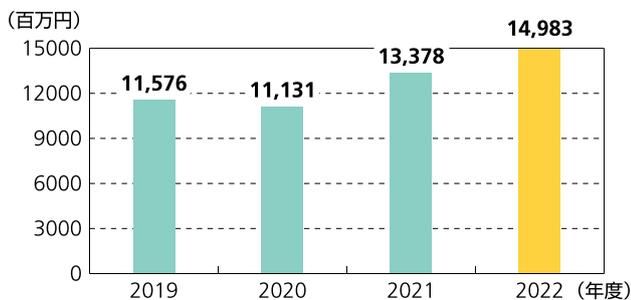
- 水処理用高分子凝集剤の製造販売
- 製紙用薬剤の製造販売
- 土木用薬剤の製造販売
- 生化学分析用ゲルの製造販売

■ 事業所

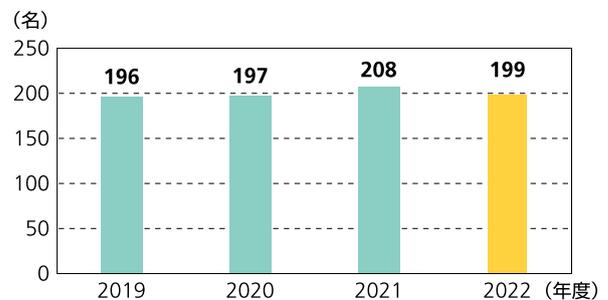
- 本社（東京）
- 支店（大阪）
- 営業所（札幌、仙台、名古屋、広島、福岡）
- 工場（青森、神奈川、山口、福岡）
- 研究センター（神奈川）
- テクノセンター（神奈川）

■ 売上高・従業員数

■ 売上高



■ 従業員数



■ 研究開発



技術戦略

「水とニュー化学」のテーマで、地球環境に優しい製法と製品を開発してきました。さらにCSR活動を推進するために、法適合と製品の安全に取り組んでいます。強力な知的財産戦略により、お客様に安心して使用していただける独自の技術を提供しています。

製品設計と機能の発掘

高度の解析技術と合成技術により、高分子の構造設計から機能の発掘へと展開し、製造法の確立に繋がります。

製品評価と使用技術の提案

先進的な機能評価技術により製品の機能を突きつめ、お客様へ最適な使用方法を提案し、新しい製品開発へ展開しています。

■ 品質サービス



生産体制

ISO9001とISO14001を取得し、最新の技術システムと環境保全体制の下で製造しています。また4工場による生産体制を構築し、大規模災害からのリスク回避を図っています。

物流体制

タンクローリー、コンテナ輸送等、お客様の受け入れ体制に合わせた輸送形態で製品を納入しています。また、輸送・納入時の無事故を最優先とした物流体制を整えています。

品質管理

万全の品質管理を行うことで、お客様に満足していただける製品のご提供が可能になります。確かな品質を維持するために、様々な規格や基準を設けています。

情報公開

化学製品を扱う者として、社会が求める情報を積極的に開示しています。レスポンシブル・ケア(RC)の理念に基づき、社会との対話を図りながら、社業に反映させています。

お客様への責任

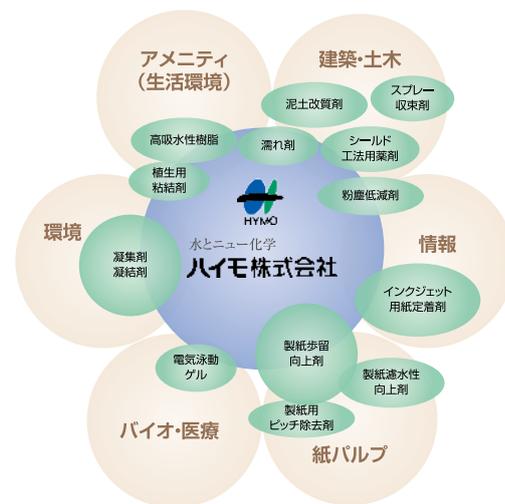
ハイモの技術と製品

水溶性高分子は環境にやさしい素材として世界的に注目を集めています。ハイモはこれまで「環境」「エネルギー」「健康」をキーワードに高度な高分子設計技術を用い、環境負荷の低減、生産性の向上に挑戦してきました。



多くの分野で利用される ハイモの製品群

当社はこれまで多様な原料を用い、優れた機能を有する環境にやさしい水溶性高分子を数多く開発し、現在も社会の広い分野で利用されています。産業界においては廃水处理、製紙プロセス、土木建設プロセスを中心とする凝集剤(ハイモロック)として、また医療分野においては電気泳動ゲルとして、更に、私たちに身近なところにおいてはインクジェット用紙の品質向上あるいは上下水道の汚泥脱水用凝集剤として、お客様の環境負荷低減、省資源化、リサイクルの推進等に役立っています。ここでは、環境に配慮した当社製品群をいくつかご紹介します。



環境に優しい高濃度水溶性ポリマー

ディスパーションポリマー

世界各国で使用されている特殊製法によるディスパーションポリマーは、当社で開発、製法が確立されました。このオイルフリー型の環境にやさしいポリマーは今後も数多くの新しい分野でその利用が期待されています。



水に素早く分散し、溶解する。



高機能型水溶性ポリマー

エマルジョンポリマー

高分子凝集剤の形態の主流である粉末製品に対し、特殊製法を取り入れ構造をコントロールした高機能型エマルジョンポリマーにより、使用量の低減、効果の向上を可能にし、環境負荷低減に貢献しています。



多くの分野で活躍 水溶性高分子の機能を活かす

これまで当社の開発した水溶性高分子は産業廃水处理における高分子凝集剤として発展してきました。当社は水溶性高分子が水中に懸濁する物質を集める凝集機能以外にも多くの機能を持つことに注目し、近年様々な分野への展開を積極的に進め、省資源化、生産効率の向上、安全性の向上に寄与する製品を提供しています。

■ 水溶性高分子とその応用

機能	用途
集める・沈める・浮かす	凝結剤・凝集剤
質を変える・接着させる	泥土改質剤・土壌改質剤
固める	固化剤
増粘させる・分散(減粘)させる	増粘剤・流動化剤・分散剤
定着させる	インクジェット定着剤
水にぬれ易くする	濡れ剤・親水化剤
収束させる・吹き付ける	収束剤・粉塵低減剤
吸水させる	吸水剤
展開させる・分離させる	電気泳動ゲル・イオン交換樹脂

お客様への責任

ハイモについて



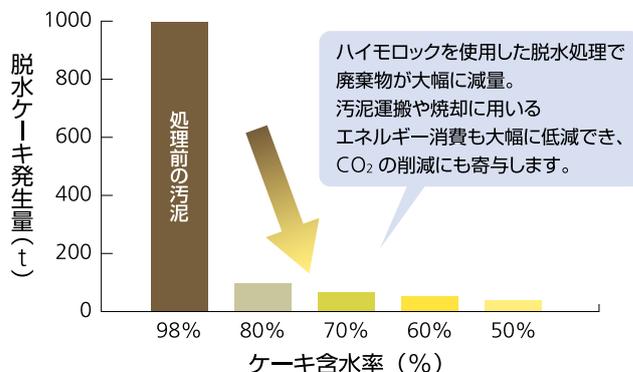
きれいな水をつくり廃棄物を削減する

水処理用高分子凝集剤

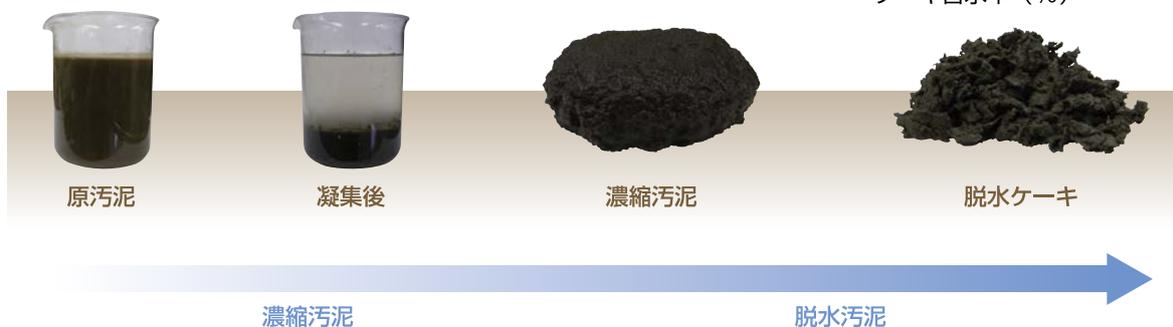
廃水処理用の高分子凝集剤(ハイモロック)は一般産業廃水、上下水道処理の処理薬剤として長い間使用されてきました。使用した水を効率よく再利用することは省資源、省エネルギーの観点から重要なテーマであり、最終処分廃棄物の減少はエネルギー消費、CO₂削減に大きく寄与します。ハイモはあらゆる廃水に迅速に、的確に対応するため、全国各地の廃水、汚泥を採取、最適な薬剤と使用方法を提案しています。



■ 脱水処理後の廃棄物(ケーキ)発生量



■ 下水処理場で発生する汚泥の凝集脱水処理工程



お客様への責任



高品質の紙づくりとリサイクルに貢献

製紙用高分子薬剤

紙は人類の歴史と共に進化しており、現代社会にはなくてはならない存在です。製紙産業は、「森林」「紙」「エネルギー」を上手く循環させて、資源を有効に活用している産業です。日本国内の製紙会社における古紙の利用率は、2022年には66.0%に達しており、高水準で推移しています。現在、新聞用紙原料では70%以上、段ボール原料では殆どが古紙です。その古紙に混在する異物やインク等を取り除き、繊維だけを取り出し、古紙パルプとして再生する高度な技術が求められています。更に、製紙会社では、用水原単位の削減、環境規制への確実

な対応の推進、省資源、省エネルギーへの取り組みが求められる、地球環境保護の為の課題は多岐にわたっています。当社では、このような課題の中から、具体的に古紙原料使用による短繊維パルプのワイヤー上での歩留率向上及び乾燥性向上を目的に歩留向上剤や濾水性向上剤を提供し、省資源や省エネルギーに寄与しています。また、古紙原料から持ち込まれる糊やテープの粘着成分、ピッチ成分を抑制する独自性のある水溶性高分子薬剤を開発し、安定した抄造環境と高品質の紙質維持に貢献しています。



ハイモのCSR活動

環境への責任



地域植生の回復

法面緑化用高分子薬剤

ダムや道路工事、開墾建設工事によって、法面^{*1}の地面や岩は風化され、降雨によって多くの土砂が流出、周辺の環境は大きく破壊されます。このような環境下では早く植物が地表を覆い、根を張り地盤を固める必要があります。しかし、ここに植物の種を蒔くだけでは十分とはいえず、種は素早くしっかりと斜面に固定される必要があります。当社では工事で発生した廃棄物の木材や植物の根をチップ化

し、現地の土を再利用したうえで、水溶性高分子を添加し、団粒化^{*2}させます。法面に吹付けた後は土の湿度・水分を保ち、斜面に強く長期にわたって接着効果を維持することによって、植物種子に良好な緑化基盤環境を作ることが可能となります。このように現地の土に含まれる種子を利用することで、他の地域の植物持ち込みを防ぎながら廃棄物の有効利用が可能となり、地域植生回復に役立っています。



社会・地域・従業員への責任

用語集

^{*1}法面：切土や盛土によりつくられる人工斜面のこと
^{*2}団粒化：土壌の粒子が小さな塊を形成している構造



作業の効率化に貢献

泥土改質剤



土木工事や災害現場に発生した多量の泥土は非常に高い含水率と流動性を示し、除去作業やその後の運搬において取り扱いが困難となります。更に処分の際、泥土流失などによる周辺への環境汚染を引き起こす危険性があります。

このような流動性の高い泥土に泥土改質剤を加え、かき混ぜることで、泥土は瞬時に団粒化現象を示し、取り扱い、運搬移動が容易となり環境汚染の発生を未然に防止できます。



安全な作業環境づくりに貢献

粉塵低減剤



トンネル工事の代表的工法にNATM工法があります。日本においても大型トンネル掘削の標準工法として施行され、あわせてコンクリート吹付工法も進歩をとげてきました。しかし、吹付時に発生する大量の粉塵について作業者の健康、安

全作業に課題を残してきました。

ハイモは長年培った水溶性高分子技術をもとに高性能の吹付コンクリート用の粉塵低減剤を開発、快適な作業環境の確保と経済的な工事の推進に活用されています。

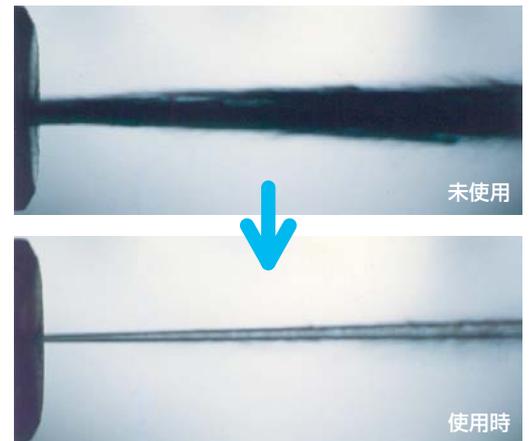


アスベストの除去作業にも活躍

収束剤



水溶性高分子を希釈した水溶液は僅かながら粘性を示します。この性質を利用し、この粘性溶液を高圧条件下で細いノズルから噴出させ合成ゴム、各種樹脂などを高精度に切断、精密加工することができます。この機能は鉄筋コンクリート構造物のはつり工事にも利用されウォータージェット工法と呼ばれています。また、近年アスベスト飛散による環境汚染が社会問題となっておりますが、このアスベストを安全に、早く、確実に除去する方法としてイーコン工法が開発され、この除去作業に当社の水溶性高分子が利用されています。



医療や生化学分野で活用される

電気泳動ゲル



生化学の発展のなかで、正確なタンパク質、DNAの分離、解析は重要な研究テーマであり、電気泳動^{*}ゲルは今後の医薬品の開発、病理の解析、或いは生物体の遺伝子情報、分類の研究等に欠かせない分析ツールとなっています。

■ 特徴

- 長期間の保存が可能のため、在庫管理が容易で、有効期限切れによる廃棄物の発生を抑制します。
- 大量生産による製造・流通コストの削減を実現しています。



電気泳動ゲルによるタンパク質の泳動像

ハイモのCSR活動

ハイモのCSR

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任

CSR推進室を設置し、環境・安全および法令遵守に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。

社会に必要とされる企業として CSR推進室

当社では、2007年に全社を統括するRC^{*1}の推進部署として「RC推進室」を発足させ、環境や安全衛生、法令の遵守などに関わる活動に取り組んできました。近年企業の社会的責任(CSR^{*2})の重要性が高まるなか、2011年からRC推進室を「CSR推進室」に改称して、社会の一員としての役割をより一層担うことができる会社を目指し、

機能強化を図りました。これにより社内における環境や健康安全に関わる管理だけでなく、会社活動が社会に与える影響に対しても責任を持って推進していく体制となりました。CSR推進室では、経営層で構成される「CSR委員会」や事業所毎の安全衛生委員会とも情報共有・相互連携を図って、活動のレベルアップに取り組んでいます。

品質・環境・安全・法令遵守への対応 主なCSR活動

コンプライアンスへの取り組み

CSR推進室では、2011年から、社員の意識・知識の向上を目的として、CSR研修会や社内報を通じた啓発活動を行っています。2020年からは、コロナ禍の影響で集合研修の実施が難しいなか、各人がパソコン・スマホ等を用いて学習する“eラーニング”によるコンプライアンス研修を定期的で開催しています。また、2017年より経営層で構成される「CSR委員会」主導のもとコンプライアンス体制の再構築を開始、組織体制の整備や社内教育の充実化を進めるとともに、新規の社内規程「コンプライアンス規程」や、31箇条からなる具体的行動の規範「行動基準」といった、コンプライアンス実践の基盤となる文書を制定しました。更に、これらの文書の要点をまとめた小冊子「コ

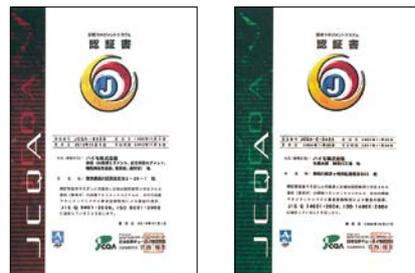
ンプライアンス・ハンドブック」を全従業員に配付し、遵守すべき事柄の浸透を図っています。また、法令遵守のための取組みとして、2009年より法令改正の監視活動を継続しています。2019年から2022年にかけて、この活動における情報源や運用手順について見直し・強化を行い、情報入手を充実化・迅速化するとともに、頻繁に発生する法令改正に対して確実に対応する体制を確立し、運用しています。



品質・環境への取り組み [ISO9001・ISO14001]

品質方針に基づいて、常に品質改善と顧客満足の向上に取り組んでいます。1998年に神奈川工場で品質ISO9001の認証を取得し、その後、生産部門の全工場、開発部門にも認証範囲を順次拡大しました。環境ISO14001については、2002年に神奈川工場と山口工場が認証取得し、2004年に青森工場にも認証拡大しました。環境方針を基に生産部門全体で環境管理プログラム計画書を策定し、環境負荷・環境リスクの低減を行っています。2015年にはISO規格が全面改訂され、実効性をより強化した

内容に刷新されました。当社でも、品質・環境ISOともに新規格に移行し、規格改訂のメリットを活かせる体制づくりを行っています。



用語集
^{*1} RC：Responsible Careの略。化学物質を取り扱う企業が、開発から廃棄までのライフサイクルにわたり環境・安全衛生について行う自主管理活動。
^{*2} CSR：Corporate Social Responsibilityの略。企業が利益の追求だけでなく、社会に対して与える影響に責任を持ち意思決定すること。

化学品安全、国内外法令への対応

全てのものは化学物質で構成されており、我々の生活を便利にしている一方で、労働環境・環境・消費活動を経由して様々な経路で暴露するリスクがあります。現在、日本では化学物質の全ライフサイクル(製造から廃棄まで)にわたり暴露経路やライフサイクルの段階に応じてきめ細かい法規制がしかれています。特に商品の提供においては、グローバル化を背景に、米国TSCA、欧州REACH規制、中国新規化学物質環境管理弁法、危険化学品安全管理条例など様々な法律により、

化学物質が管理されています。当社は化学品メーカーとして国内外の登録化学物質リストおよび法令の改正に適切な対応をとり、当社従業員の安全を確保するとともに、迅速にお客様に対する責任を果たすため、新規に法令情報システムや社外データベースを導入しています。日本を含め関係する各国の化学品規制の最新の状況や動向の情報収集・解析を常時行っています。

持続可能な社会の実現を目指して SDGsへの対応状況

2015年の国連サミットにおいて“持続可能な開発目標(SDGs[※])”が採択され、2030年までの達成を目指して、世界各国では活発な取り組みが行われています。この世界的な潮流を受けて、ハイモは、持続可能な社会の実現に不可欠な次の3項目を主要テーマに掲げ、廃水処理をはじめとする事業領域での活動を通して、SDGsの課題解決に向けて積極的に貢献していきます。

- 水循環社会の実現を推進する
- 環境負荷低減・省資源化を進める
- 植生回復・緑化推進に努める

SDGs目標に関連するハイモの活動

※[]内は関連ページ

SDGs目標	ハイモの活動
 3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢の全てのの人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する <ul style="list-style-type: none"> ● 作業環境改善や医療の向上に寄与する製品を提供 [p.7] ● 自社製品の安全性に関する正確・適切な情報提供 ● 自社の活動で取扱う化学物質の適正管理
 6 安全な水と衛生を	全てのの人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する <ul style="list-style-type: none"> ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における排水水質の適正管理と改善 [p.12]
 7 エネルギーにアクセスを	全てのの人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する <ul style="list-style-type: none"> ● エネルギー消費の低減に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動・生産プロセス等の省エネ化を推進 [p.12]
 8 働きがい、経済成長を	包摂的かつ持続可能な経済成長及び全てのの人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する <ul style="list-style-type: none"> ● 自社の活動における労働災害防止への取り組み [p.13-14] ● 自社の労働環境整備・向上を推進 [p.15]
 12 つくばい責任、つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する <ul style="list-style-type: none"> ● 省資源化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における廃棄物の削減・リサイクルへの取り組み [p.12]
 13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる <ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出量低減に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動におけるCO₂排出量削減への取り組み [p.12]
 14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する <ul style="list-style-type: none"> ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6] ● 自社の活動における排水水質の適正管理と改善 [p.12]
 15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する <ul style="list-style-type: none"> ● 植生回復・緑化促進に寄与する製品を提供 [p.6] ● 排水浄化に寄与する製品を提供 [p.6]

環境への責任

環境等に関するさまざまな改善活動を継続しています。

環境関連データ

生産部門



全社的な傾向として、エネルギーのほとんどは生産活動に投入されています。

生産部門におけるエネルギー消費量の変化は、概ね生産量の増減に同調しており、生産活動に伴い発生する廃棄物も他部門と比較して多くなっています。生産部門では環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、このシステムの運用によって環境負荷や環境リスクの低減に取り組んでいます。

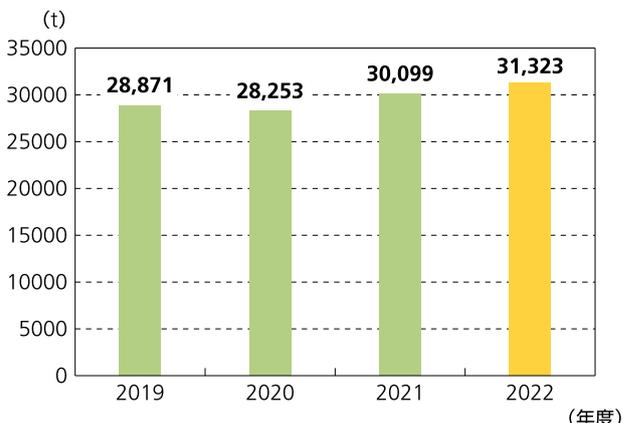
一方、営業部門では販売活動に伴う自動車移動で消費されるガソリン使用の比率が高くなっており、開発部門では、試作開発・各種分析に必要な熱源利用や、精密測定機器のメンテナンス・維持のため、床面積当りの電気使用量が多い傾向があります。

また、生産・営業・開発・管理の全部門において、廃棄物の減量化とリサイクルを推進しています。

生産量

2022年度は、コロナ禍による需要減少のなかではありましたが、海外向け出荷の増加などによって、前年度に比べ生産量は増加しています。

生産量



エネルギー使用量・CO₂排出量

エネルギー投入量・CO₂排出量ともに、概ね生産量に連動して増減する傾向にあります。

■ エネルギー使用量・CO₂排出量



水資源投入量・排水量

製造工程において、原料としてのほか、設備や製品容器を洗浄するために水を使用しています。2022年度は、生産量増加などが影響して、前年度に比べて水資源投入量がやや多くなっています。排水量は、概ね水資源投入量に連動して増減する傾向にあります。

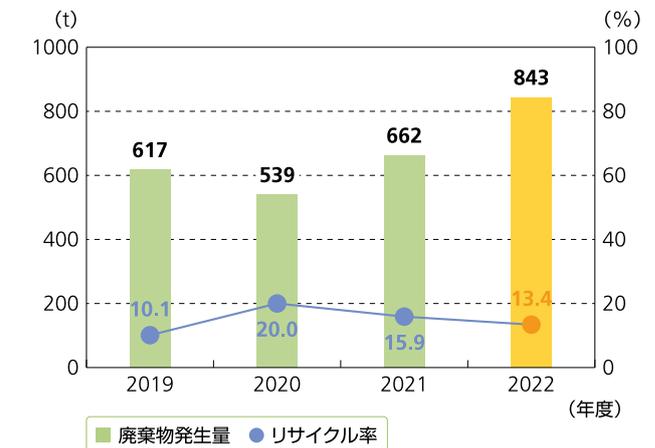
■ 水資源投入量・排水量



廃棄物発生量・リサイクル率

廃棄物発生量とリサイクル率は、建設廃材などの一時的に発生する廃棄物の影響によって大きく変動します。そういった影響を除けば、廃棄物発生量は生産量に連動する挙動を示し、リサイクル率は一定値付近で推移する傾向にあります。

■ 廃棄物発生量・リサイクル率



環境への責任

ハイモについて

お客様への責任

ハイモのCSR活動

環境への責任

社会・地域・従業員への責任



2022年度の目標と実績

環境安全活動状況

CO₂削減に関するテーマでは、エネルギー使用量の大きい「高濃度液状製品」の生産量増加や、製造トラブルに由来する廃棄物の発生など一時的に廃棄物が増えたことによって、いずれも大きく目標未達となりました。また、安全衛生に関しても、人身災害が5件発生してしまいました。

これらの結果を踏まえて、災害・トラブルの再発防止を徹底するとともに、エネルギー消費の更なる抑制のための検討に取り組んでいます。

推進項目	テーマ	2022年度目標	2022年度実績	関連ページ
環境負荷低減	CO ₂ 削減	製造原単位あたり CO ₂ 排出量 2021年度比 1% 以上削減	2021年度比 2.3% 増加	11
		製造原単位あたり エネルギー使用量 (電気・ガス・燃油) 2021年度比 1% 以上削減	2021年度比 9.8% 増加	11
		製造原単位あたり 廃棄物発生量 (リサイクル分を除いた量) 2021年度比 1% 以上削減	2021年度比 26.1% 増加	11
	水生環境への負荷 低減	排出水のSS ^{*1} 濃度 法令による基準値の50% 以下 (年間平均として)	法令による基準値の28.3%	-
		排出水のCOD ^{*2} 濃度 当社自主基準値の50% 以下 (年間平均として)	当社自主基準値の22.3%	-
安全衛生	安全操業の推進	人身休業災害なし 人身無休災害なし	人身休業災害：1件 人身無休災害：4件	13
		安全教育の実施	従業員、委託業者への安全教育を実施	-
		事業所内の安全パトロールの実施	定期的な安全パトロールを実施 (1回/月など)	-
		5S ^{*3} 推進活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 各職場にて5S活動・5S啓発を実施 製造現場等の5S状態のチェック・指導を実施 	-
危機管理	防災体制の整備	防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 地震・火災などを想定した防災訓練を実施 災害時の安否報告訓練を実施 	13, 14
社会との共存	社会活動への参加	地域の社会・環境活動への参加	地域の清掃活動に参加	-
	環境情報の発信	HYMO CSR Reportの発行	発行を実施	-

用語集

*¹SS：Suspended Solidの略。浮遊物質。水中に浮遊している物質の量のこと。

*²COD：Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量)の略。有機汚濁物質による水質の汚れ度合いを示す数値のひとつ。

*³5S：整理・整頓・清掃・清潔・躰の5項目。

社会・地域・従業員への責任

化学メーカーにおける「安全」は、社員にとっても、また地域の皆様にとっても、最優先で取り組むべき課題です。



安全な職場づくりを目指して

労働災害防止への取り組み

安全操業は生産活動の基本です。当社では全国の生産拠点で、労働災害防止の取り組みを進めています。事故・トラブル事例の情報共有や水平展開、安全パトロール等による職場環境の改善、災害防止のための定

期的な訓練等を通して、日々安全操業のレベルアップを図っています。更に2015年度から、BCP*に基づく取り組みも合わせて行い、安全操業と供給責任の達成の両立を進めています。

災害件数

年度	休業災害	無休災害
2019	0	8
2020	0	4
2021	0	2
2022	1	4



各工場で定期的に実施

防災訓練 (2022年度)

毎年各工場防災・避難訓練を実施し、災害時における安全確保と避難経路の確認を行っています。今回もコロナ感染拡大に注意しながらの実施となりましたが、地震発生を想定し従業員全員が円滑に避難できるよう訓練しました。また、緊急時機材や非常食の在庫確認も行い万が一の事態に備えています。その他、各工場テーマを決めて訓練を実施しました。

- **青森工場**
製造棟内での原料コンテナ漏洩を想定した漏洩時の対処訓練
- **神奈川工場**
心肺蘇生とそれに伴うAEDの取り扱いに関する一次救命処置の参考動画視聴
- **山口工場**
製品漏洩を想定した製品回収訓練と放水訓練



青森工場



神奈川工場



山口工場



労働災害を未然に防止

化学物質管理体制の見直し

化学物質による労働災害を防止する為、労働安全衛生規則等の一部が改正されました。化学物質は年々増加しており、起こりうる労働災害を未然に防止する仕組みが必要となります。当社では各事業所にて化学物質管理体制の見直しを行い、リスクに基づく必要な措置を検討・実施することで安全衛生水準の向上に取り組めます。また、各管理者の選任に向けた講習会参加等の準備も進めています。

- リスクアセスメント対象物への対応
- 化学物質管理者の選任
- 保護具着用管理責任者の選任

社会・地域・従業員への責任

責任ある企業として、地域社会への貢献や従業員満足度の増進に取り組んでいます。

ハイモのこころ



従業員の意識向上

救命・救急、災害への対応

湘南研究センターでは、職場の安全と社員の健康の維持のため、安全衛生委員会を設置し毎月1回開催しています。同委員会は、安全衛生推進者を中心としたグループリーダーと輪番による従業員から構成され、大きな問題や懸念事項に対しセンター全体で解決に取り組んでいます。日常の予防活動に重きをおいた労働安全衛生への取り組みとして、センター内の安全パトロールの実施、各グループのトラブル報告やヒヤリハット報告情報をセンター内

で共有し、安全衛生の改善に努めています。又、例年、同委員会では避難訓練や講習会（救命・救急、交通事故防止）を企画し、安全に対する従業員の意識向上に努めています。2022年度は、全員が参加してAEDを使用した救命訓練を行いました。また、避難訓練では、地震発生時に負傷者が出たとの想定で、負傷者搬送、AED対応テントの設営、救急通報等の訓練を実施しました。



お客様への責任



企業として社会的責任を果たしていく

企業行動指針を改定

2023年4月、当社は「企業行動指針」を改定しました。これまでの「企業行動指針」は制定から32年が経過し、その間、会社を取り巻く環境は大きく変化しました。新たに策定した「企業行動指針」は、今後のハイモのあるべき姿を反映した内容として、「お客様、環境、地域、従業員」に

対しての社会的責任を果たしていくことを明示したものとなっています。

当社社員は、「企業行動指針」に基づいた行動を実践し、お客様や社会への信頼の輪を広げていきます。

ハイモのCSR活動

ハイモ株式会社 企業行動指針	
両利きの経営	既存事業と将来の探索事業を同時に追求する企業経営を行い、企業の社会的責任を果たし持続可能な成長を実現する。
事業の革新性	高いアンテナを保持し、革新的、刷新的なアイデアを創造し、広く社会に有用で新たな付加価値を持つ商品を開発する。
個の多様性	個人の人権を尊重し、多様性、人格、並びに個性に配慮した働き方により個々の能力を高め、時代に即した行動を求めらる。
環境への配慮	地球環境の保護を、企業の存続に必須な要件として捉え、環境への影響を考慮して廃棄物やエネルギーの低減に取り組む。
顧客との信頼関係	顧客に対して商品に関する適切な情報を開示・提供し、誠実に交流を図り、顧客の満足度を向上させて、信頼を獲得する。

環境への責任



従業員が安心して働ける環境づくり

法律相談窓口の設置

福利厚生制度の一環として全従業員が法律問題に直面した場合に、専門家に相談できる窓口を設置しました。当社の顧問弁護士事務所と提携し気軽に法律相談を行うことができます。

法律相談窓口を設置することで従業員のストレスや不安を解消し、より安心して働ける環境を実現していきたいと考えています。

社会・地域・従業員への責任



多様な人材の活躍を推進

誰もが安心して活躍できる職場環境のために

ハイモでは、多様な個性や価値観を持つ人材が安心して活躍できるように、人事制度を刷新し、柔軟な働き方を選べる制度の拡充など環境づくりに力を入れてきました。それととも

に、女性や中途人材の採用、定年退職者の再雇用を全ての職種において推進しています。直近の3年間では、新卒入社者の女性比率は25%以上で推移している状況です。

■ 従業員における女性の比率

年度	比率
2020	29.5%
2021	28.7%
2022	28.2%

■ 管理職における女性の比率

年度	比率
2020	7.7%
2021	10.0%
2022	9.8%

■ 従業員における定年後再雇用者の比率

年度	比率
2020	8.9%
2021	5.7%
2022	5.3%

※いずれも各年度4月1日時点の数値



2022年度は延べ8名が取得

育児休業制度、育児短時間勤務制度等

2022年度は、1名の女性社員と、1名の男性社員が育児休業を取得しました。また、4名の女性社員と2名の男性社員が、育児のための勤務時間短縮、及びフレックス勤務制度を利用して就業し、育児と仕事の両立を図っています。

2019年度に初めて男性社員が育児休業を取得し、それ以降、男性社員の育児関連制度の利用実績も増えています。男性社員や複数回利用者にとっても、利用しやすい制度となる様、これからも制度の更なる見直しを図っていきます。

■ 育児支援制度利用者数

年度	男性	女性
2020	2	4
2021	2	4
2022	3	5



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

有給休暇の取得状況

当社は従来より、有給休暇取得促進の観点から、入社初年度の取得可能日数増(13日間)や有給休暇の計画的付与日数増(1日増、計2日間)に取り組んできました。2022年度の有給休暇の平均取得日数は13.8日、平均取得率は77.8%となり、

2021年度と比較して、平均取得日数は1.9日増、平均取得率は11.7%増となりました。これからも足元の状況変化等に柔軟に対応し、社員にとって有給休暇が取得しやすい環境作りに努めていきます。

■ 有給休暇の年間取得日数

年度	取得状況
2020	11.3日
2021	11.9日
2022	13.8日



キャリア開発

英会話教室開講

2015年度より、社員の自己啓発支援を目的とし、外部講師による英会話教室を開講いたしました。2022年度は、本社にて開催、外国人の講師をお招きして実施しています。こ

れからも社員のスキルアップに資する施策を展開していきます。



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3833

社名コンセプト

社名「ハイモ(HYMO)」は、これからの当社の企業姿勢と、事業領域とを示しています。

企業姿勢とは、「高く優れた(High)技術によって、より多く(More)お客様の信頼に応えていくために行動、努力すること」です。

事業領域とは、「Hydro Modern Chemistry(水とニュー化学)」という新しい事業領域です。